

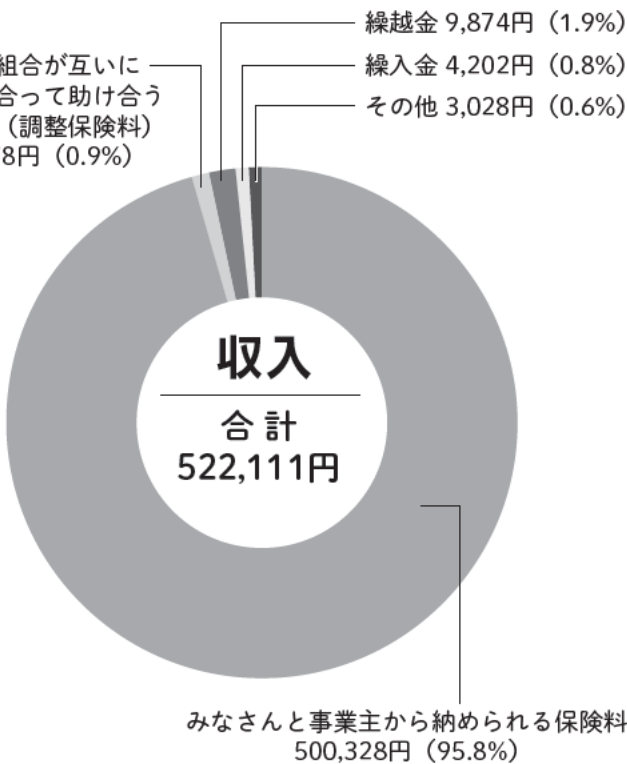
令和6年度予算のお知らせ

保険料率を引き上げてもなお経常赤字予算
健保組合へのご協力をお願いします

当健保組合の令和6年度予算がまとまりましたので、概要をお知らせいたします。

日本が直面している最大の危機は、かつてないほどの少子高齢化です。65歳以上の高齢者が増加し続けている反面、若い世代は2030年代に入るま

でに急激な減少が見込まれており、社会経済の活力が損なわれることはもちろん、社会保障の担い手の不足も危ぶまれています。



※端数処理の関係で一部合計の合わない場合があります。

求められているのは、すべての世代が安心して日常生活を送ることができ、社会保障制度の構築です。そのためには、現役世代に頼るのではなく、能力に応じてすべての世代で支え合っていく必要があります。これまでも、一定以上の所得がある高齢者の医療費の2割負担や、後期高齢者の保険料負担の見直しなどが行われてきましたが、現役世代の負担軽減のためには、さらなる見直しと改革が求められています。

健保組合と社会保障をめぐる状況は、今後も目まぐるしく変化していくことが予想されるなか、当健保組合の令和6年度予算がまとまりました。予算総額24億8,525万円、経常収入23億8,845万円、経常支出24億5,246万円となり、差引6,401万円の赤字を見込んでいます。

健康保険予算

今年度は、健康保険料率を千分の100から千分の110へ引き上げさせていただき、予算を編成いたしました。

当健保組合では、高齢者医療制度への納付金負担が増加し続け、2年連続で赤字決算となり、令和5年度決算も赤字となる見込みです。別途積立金を繰り入れる等して対応してまいりましたが、今後の財政状況について検討を重ねた結果、令和6年度の健康保険料率を改定することといたしました。みなさんのご理解とご協力をお願いいたします。

収入面では、みなさんと事業主から納めていただく保険料は前年度より1億4,084万円増の23億8,156万円を計上しています。支出面では、みなさんが病気やけがをしたとき

令和6年度 収入支出予算概要

健康保険

●収入

科 目	予算額 (千円)
みなさんと事業主から納められる保険料	2,381,562
健保組合が互いに出し合って 助け合うお金 (調整保険料)	22,269
繰越金	47,000
繰入金	20,001
その他	14,418
合 計	2,485,250

●支出

科 目	予算額 (千円)
健保組合を運営するための事務費	50,904
病気やけがやお産をしたときに 健保組合が負担する保険給付費	1,338,840
高齢者の医療に使われる納付金	935,872
健康づくりに使われる保健事業費	122,800
健保組合が互いに助け合うための拠出金	22,269
その他	4,565
いざというときのための予備費	10,000
合 計	2,485,250

介護保険

●収入

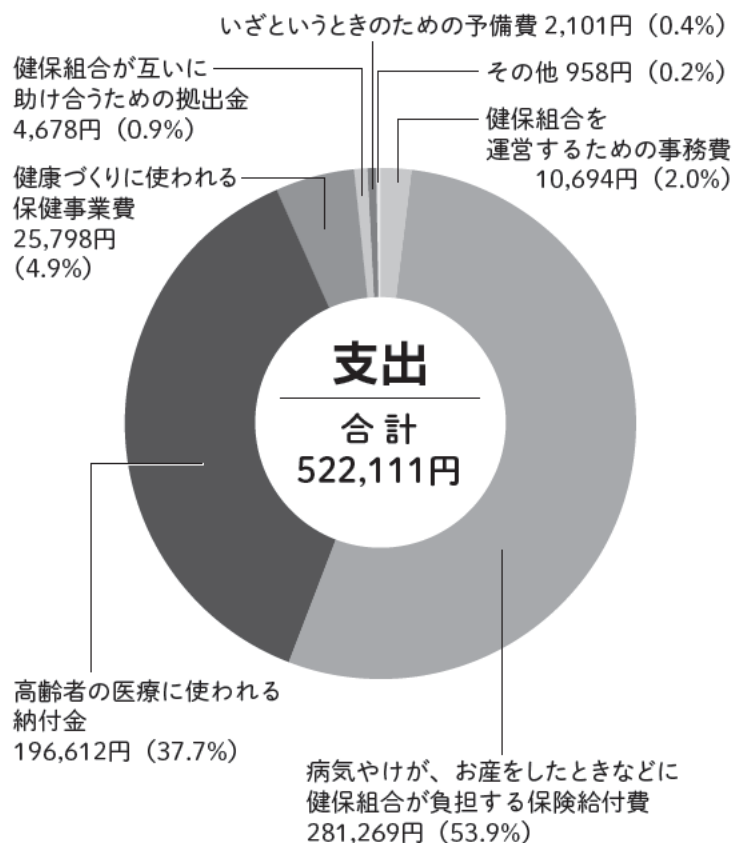
科 目	予算額 (千円)
みなさん※と事業主から 納められる介護保険料	232,545
繰越金	6,000
繰入金	1,000
雑収入	15
合 計	239,560

●支出

科 目	予算額 (千円)
国に納める介護納付金	237,305
介護保険料還付金・積立金	255
予備費	2,000
合 計	239,560

※介護保険第2号被保険者たる被保険者等

被保険者1人当たりでみた



の医療費などにあてられる保険給付費に同じ1669万円減の13億3884万円、高齢者医療制度を支えるための納付金に同比2884万円増の9億3587万円をそれぞれ見込んでいます。今後も65歳以上の人口は増加傾向が続くと見込まれ、納付金の負担増は避けられません。みなさんとご家族の健康づくりにあてるための保健事業費は同比約1690万円減の1億2280万円と、縮小して予算を組んでおります。



介護保険予算

健保組合は、介護保険第2号被保険者(40歳以上65歳未満の方)に納めていただいた介護保険料を介護納付金として国に納めています。今年度は、介護保険料率を前年度の千分の16・2から千分の17に引き上げて予算を編成いたしました。収入総額2億3956万円となり、このうち2億3731万円を介護納付金として国に納付いたします。

健保組合を取り巻く厳しい状況をご理解いただき、ご自身とご家族の健康づくりと、医療費の節減にご協力くださいますようお願いいたします。

健保組合は、加入者のみなさんの病気や死亡や出産などに関して「保険給付」を行い、みなさんの生活の安定と福祉の向上のために「保健事業」を行う公法人です。高齢者医療制度への納付金の負担が重すぎるため、本来の役割を十分に発揮することが難しい状況に陥っています。

以上の結果、健康保険料率を引き上げさせていただいたにもかかわらず、保険料による収入だけでは支出をまかないきれないことから、繰越金より4700万円、別途積立金より2000万円を繰り入れて、収支の均衡をはかることといたしました。